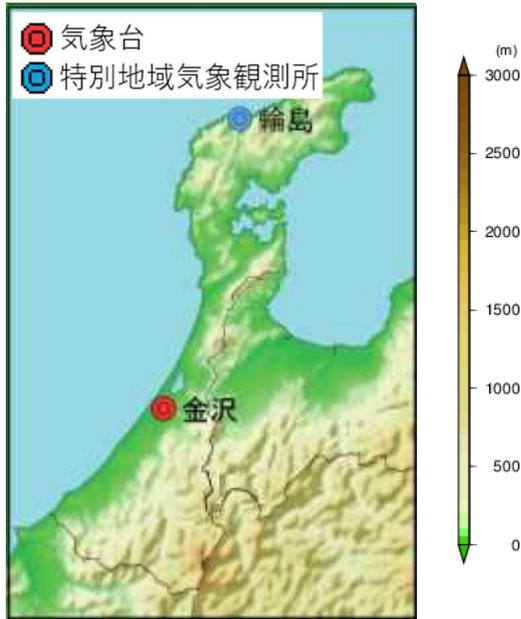


石川県



石川県の地勢

石川県は、東は宝達丘陵^{ほうだつきゅうりょう}により富山県に、南は白山、大日山の両白山地が岐阜及び福井県と接し、北部は能登半島が日本海側に大きく突き出しており、低標高の小起伏山地と丘陵地とで形成されている。県の面積は4,186km²(全国第35位)で、森林は69%、農地は12%を占めている。

地形的特徴は、東西の延長距離が99.9km、南北の延長距離は198.5kmもあり、北東から南西方向に細長く、海岸線の総延長は581.5kmに及んでいる。

能登地方は、おおむね標高300m以下の低山地と丘陵地が大部分を占めている。日本海に面した海岸は外浦^{そとうら}と呼ばれる。外浦は各所に海岸段丘が発達し、波浪浸食が著しい。もう一方の富山湾に面した海岸は内浦^{うちうら}と呼ばれる。内浦は沈降性の入り組んだなだらかな海岸線が続き、外浦とは対照的な海岸地形がみられる。

加賀地方は、白山(標高2,702m)を最高峰とする山岳地帯と山地帯が発達し、そこから流れ出る河川の浸食、堆積によって成立した沖積平野が広がっている。手取川や犀川、浅野川流域には典型的な河岸段丘^{てとりがわ きいがわ}もみられる。海岸部は南部を除いて、単調な砂丘海岸が連なり、その規模は日本有数のものとなっている。加えて白山を初め、主として新しい地質時代の火山活動の影響を受け、山系は一層複雑なものとなっている。



石川県の気候

石川県は、晴れる日が少なく、降水量が多い日本海岸気候区に属する。大陸からの冷たい季節風の影響を受けて気温が低く経過し、暖かい日本海から熱と大量の水蒸気を補給されて生じる雪雲が流れ込むことで雪の降る日が多くなる。

能登地方と加賀地方の平野部、山沿い山間部で気候の違いが比較的明瞭で、能登地方では日本海に大きく突き出していることから、寒暖の季節風の影響を受けやすく、季節の移り変わりが比較的是っきりしている。

加賀地方の平野部は比較的温かな気候であるが、冬季は北陸地方特有のしぐれ現象で天気はぐずつく日が多い。ただ、他の北陸地方の都市と比べると降雪量はやや少ない。

加賀地方の山沿い山間部は海上から流れ込む雪雲が白山山地にぶつかって多くの雪を降らせる。降雪量は平野部の2~4倍にもなり、白峰では最深積雪480cmの記録が残っている。

冬季は暖かい日本海と冷たい季節風の影響で大気の状態が不安定となり、雷は冬季に多い。

地形データにはUSGS(アメリカ地質調査所)のGTOPO30を利用した。